

春夏秋冬



春夏秋冬 第17号
発行/高橋たくみ事務所

仙台市青葉区昭和町5-3
TEL.022-725-3019 FAX.022-725-3029
E-mail:sendai@takumi-takahashi.net

仙台市議会初の 決算不認定

撤去した街路灯の解約を20年以上にわたり忘れ、必要のない電気代を支払うなどの、不適切処理をおこなってきた所謂「街路照明灯問題」について、今定例会では各会派から様々な議論が繰り広げられました。必要がないのに支払い続けていた約9200万円のうち、本市過払い分3440万円分の補填について、市長は3割減、副市長は2割減を3か月、残りは役所職員(部長級以上)の任意での協力で補填するという市長の方針の根拠や、市長の対処について、決算特別委員会の日程に街路灯問題の特別枠を設け、時間を掛けて各会派から質疑がなされま

したが、市長を始めとする市当局からは、我々が納得する答弁を頂くことは叶いませんでした。私も苦渋の決断を迫られましたが、市当局から我々や市民が納得出来る答えや説明を受けていないのに、そのまま決算認定をして良いはずがないという強い信念のもと決算認定することに反対し、仙台市議会初めてとなる「不認定」が決定されたところでございます。

今後も市議会議員として市当局とは是々非々で議論し、誠実な行政の在り方を追求していきたいと考えております。

超高齢化社会を迎えるにあたり本市はどのような生き残っていかねばならないか。本気で考え、行動していかなければならない時期であると思えます。今定例会は、そのような様々な課題が山積する中で、子どもの健全育成を重点に置き、二期目初めての一般質問をいたしました。

令和元年10月2日 第三回定例会 一般質問

令和という新時代が幕を開け、今月22日には195か国の世界の要人が見守る中、即位礼正殿の儀が行われ、儀式の大嘗祭が執り行われ、日本国の象徴であります新天皇陛下がご即位なされます。我々日本国民にとって尊い瞬間であり、この時代に生を受けた事に心から喜びを感じております。

つくるうー！ 子どもの遊び場

◎本市は子育てふれあいプラザ「のびすく」が各区に整備されており、子育て支援や交流スペースなどのサービスを提供しており、子育て中の皆様にとって情報が集まる拠点となっている。最近、特に子育て世代の皆様から「子どもの遊び場が欲しい」という声を多く頂く。

前任期中、議会でも取り上げさせていただいた北仙台・上杉地区周辺の遊び場の要望もあるが、遊び場は子育て世代全ての方々の切実な願いだ。

109万市民を抱える本市には子どもが自由に遊べる屋外の拠点が圧倒的に少ないと思つた。宮城県内を見ても屋内の遊び場はある。子育てを重点施策として取り組んでいる白石市では、昨年8月にオープンした「こじゅうろうキッズランド」がある。

宮城県最大級の屋内遊び場となった同施設は8メートルの高さの大型遊具を始め、木製遊具、乳幼児専用の広場など、親子で楽しめる施設として県内は元より、県外からも多くの来場者が訪れ、オープンから1年を迎えた本年8月時点で、8万5千人を超える方が利用している。

また、隣県の山形県では子どもの遊び場がかなり充実しており、仙台にも「ひがしねあそびランド」のような施設ができないのか」という声を各方面から頂く。

ひがしねあそびランドは、東根市の大森山の麓に位置し、平成21年9月に東根市子どもの遊び場市民検討委員会の設置、同年12月には基本構想・基本設計が実施され、5億7700万円の事業費で建設し、平成25年5月5日の子どもの日にオープンした。

こどもの自主性・社会性・創造性を育む場として、極力遊びに制限をなくし、「自分の責任で自由に遊ぶ」をテーマとして様々な設備が用意されている。



ひがしねあそびあランド

利用料はなんと無料。4ヘクタールある敷地には、大ケヤキをイメージした大型ネット遊具、水遊びができる噴水広場があるシンボルゾーンを始め、農業体験ゾーン、冒険広場ゾーン、幼児広場ゾーン、芝生滑りが出来る斜面ゾーンなど、5つのゾーンがあり、全てのエリアが子どもと大人が一緒に学びながら遊べる環境が整っている。特に目を引くのが、この公園の子連れおでかけのポイントと題した注意書き。

「着替え(汚れても良いもの)と遊び心(大人の方には童心)を持ってきてください。」「飲食の際は、子どもの遊びの邪魔にならないスエービスを選んでください。」「など、正に子どもへの遊びから生まれる学び、「遊育」がメインとなっているユニークなものになっているところが、子どもへの為の施設である所以である。

また、同施設は近隣の総合保険福祉施設「ざくらんぼタンクトルセンター」などと連携し、子育て支援事業を行ったり、最近ではグラウンドゴルフ場を整備するなど、子どもからお年寄りまで楽しめる遊び場となっている。人口4万7千人強の東根市に、同施設の来園者数は平成25年5月~平成26年3月末の約10カ月でなんと35万人。東根市は全国でも先進的な取組みを進めており、県外からの交流人口のみならず、子育て環境が充実していることから、山形県内で唯一、人口が伸び続けている市として県内でその存在感を發揮している。

他にも山形県内には無料で遊べる大型の遊び場が多く点在し、週末ともなると山形県内は県内外から訪れる子どもたちでいっぱい溢れている。そんな山形県の人口より多い本市には、なぜ遊び場がないのか。

子ども健全育成の観点で本市の大型の子ども遊び場がない現状をどのようにお考えなのか。そして多面より遊び場が欲しいという保護者の皆様の声についてご当局のお考えを伺う。

◎子供未来局長

子どもが外で思い切り体を動かして遊ぶことは、その健やかな成長にとって非常に大切なことだと考えている。昨年実施した子育て世帯へのアンケート調査でも、屋外の遊び場の充実を求めるご意見をいただいているところだ。

ご指摘のような広大な敷地を有する屋外の遊び場を整備することについては、その用地の確保や整備費、維持管理など様々な課題があるものと考えている。

一方で、本市には、多くの

